

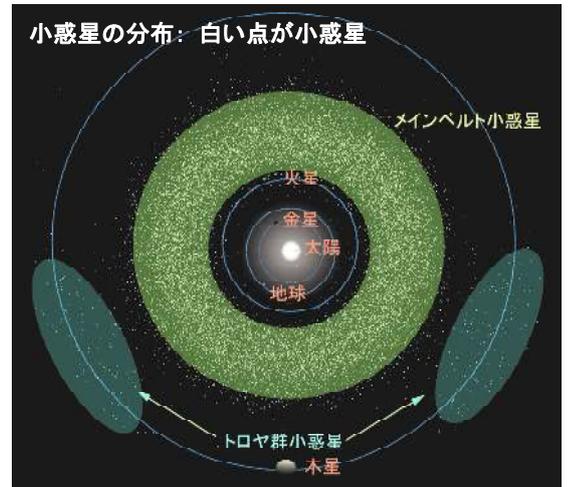
ジオスペース館だより

★小惑星ってどんな天体？

《小惑星》は、太陽の周りを公転する惑星と準惑星、それらの衛星以外の「小さな天体」《太陽系小天体》のことで、主に木星軌道より内側にあります。その多くは火星と木星の間に集中しており【メインベルト小惑星】と呼ばれています。この【メインベルト小惑星】のほか、木星の軌道付近に集中している【トロヤ群小惑星】や、地球に接近する軌道をもつ【地球接近小惑星】などもあります。

《小惑星》が火星と木星の間の小惑星帯に集中しているのは、太陽系が形成されていくうえで、初期にできた多くの数千キロメートルの天体《微惑星》が、後からできた巨大な木星の重力に影響を受けたためだと考えられています。木星の大きな力によって、火星と木星の間の微惑星は軌道が乱され合体してすることができず、微惑星どうしが衝突してバラバラになり、惑星にまで成長(せいちょう)することができずに小さな天体《小惑星》になったと考えられています。現在、《小惑星》は50万個以上が発見(2019年5月現在)されています。次回以降に、《小惑星》はどのくらいのおおきさなのか、どのようにして発見されたのか、などを紹介していきます。

【太陽系の天体 その3】

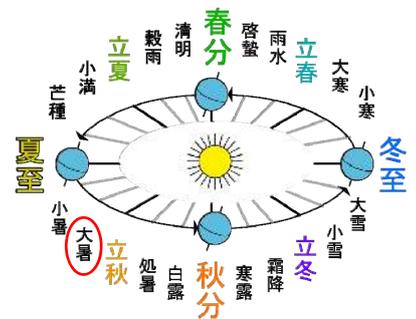


惑星や小惑星の大きさや明るさはかなり強調しています。地球接近小惑星はまばらなためグループとして表示していません。

図は国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクト Mitaka を用いて作成

★二十四節気・7月22日は《大暑》

1年を24等分し、季節を表す二十四節気。7月下旬の節気は《大暑》と呼ばれ、毎年7月22日頃になります。《大暑》とは、夏の暑さがピークを迎える時期のことを意味します。快晴の日が続き、気温が上がって、猛烈な暑さとなります。また《小暑》と《大暑》の1ヶ月間を「暑中」といい、日本ではこの期間に「暑中見舞い」を贈る習慣があります。



★月が土星、木星に接近！

7月下旬は、真夜中の南の空に土星と木星が見えます。24日は、日の入り後しばらくすると、土星と満月が東南東から昇り、続いて木星が昇ります。25日は、暗くなる頃に月と木星が昇りますが、真夜中ごろには南の空で並んで輝きます。25日と26日に月の近くに輝く星は木星です。月も木星も明るく、とても目立って見えます。



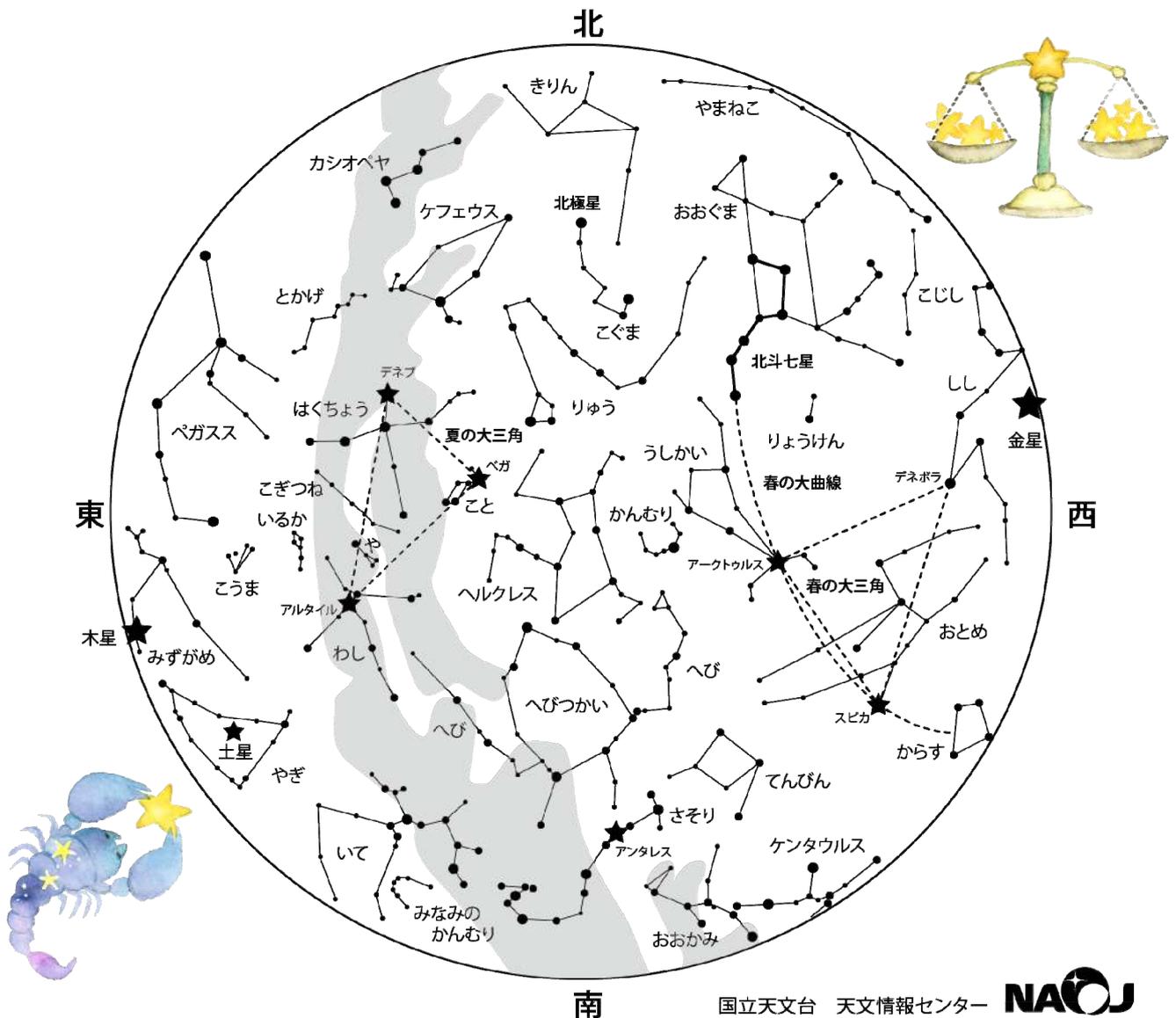
図はステラナビゲーター11を用いて作成、月は大きさを強調しています

★ 7月のプラネタリウムの内容につきましては別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 7/16(金)、19(月)~21(水)、26(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

7月下旬午後8時30分頃の星空



★ 7月下旬の主な天文現象

17日(土) ● 上弦	25日(日) 月と木星が接近(翌日も)
22日(木) 大暑、金星とレグルスが接近	30日(金) みずがめ座 δ 南・北流星群極大
24日(土) ○ 満月、月と土星が接近	31日(土) ● 下弦

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 7/15~31) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 7月15日(木) [見やすさ◎]	20:35	西南西	~	20:41	北北東
◇ 7月16日(金) [見やすさ◎]	3:06	北西	~	3:13	東南東
◇ 7月16日(金) [見やすさ◎]	19:47	西南西	~	19:54	北東
◇ 7月17日(土) [見やすさ○]	3:56	西	~	4:01	南

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。